

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 6 年 1 月 調査結果 - -

(平成 1 6 年 2 月 2 日)

調査期間：平成 1 6 年 1 月 2 0 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 0 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 2 製造業 6 2 9 卸売業 2 3 0
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成16年1月調査結果のポイント】

業況DIは3カ月ぶりに改善するも、景況は依然、不透明感が続く

1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（39.0）よりマイナス幅が2.2ポイント縮小して36.8となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況DIは、製造を除く4業種でマイナス幅が縮小したため、全産業合計の業況DIもマイナス幅が縮小した。業況は好調との声はあるものの、依然DI値は低水準で、中小企業の足元では景況の停滞感が根強い。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷など、依然、不透明感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「店舗の新築、改修が多くなってきた」（一般工事）との声があるものの、「公共工事は前年比半減となり、年度末にかけても県の公共工事前倒し発注の反動で発注増の見込みは薄い」（一般工事）、「公共工事依存度が高い地域のため、公共工事削減による受注競争激化で、今後も採算悪化傾向が続く見込み」（一般工事）といった、厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「高水準の受注が続いている」（金物類）、「受注は増加傾向」（燃系）といった声の一方、「中小メーカーはさらに経営が落ち込み、ますます大手との差が開いてきている」（楽器）、「原材料価格の上昇を販売価格に転嫁できず、採算悪化」（非鉄素形材）、「事業所により好不調の格差があり、先行きも円高懸念などで、これまでのようには楽観できない」（輸送機器）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「今月は寒い日が続いたため売上は好転」（衣服）といった声はあるものの、「売上が順調だったのは年明けのうちだけで、その後は流通の動きが止まってしまったようで、今後も大きな動きの見通しもなく不安」（食料、飲料）、「外食産業が野菜を国産から安い輸入物に替えているため、国内産の価格、消費とも低迷気味」（農畜産水産物）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「初売りは福袋も早期に完売し、クリアランスセールもブランド婦人服を中心に好調な出足となっている」（百貨店）との声の一方、「初売りイベントなど、年末年始の売上は好調だったが、その後は好調さを持続させるのが難しい状況」（商店街）との声や、「前年同月比6～7%の売上減で、年金・増税論議やBSE・SARS問題など悪い材料ばかりで、これまで横ばいだった消費も減少することを懸念」（百貨店）と先行き不透明感を訴える声が寄せられている。

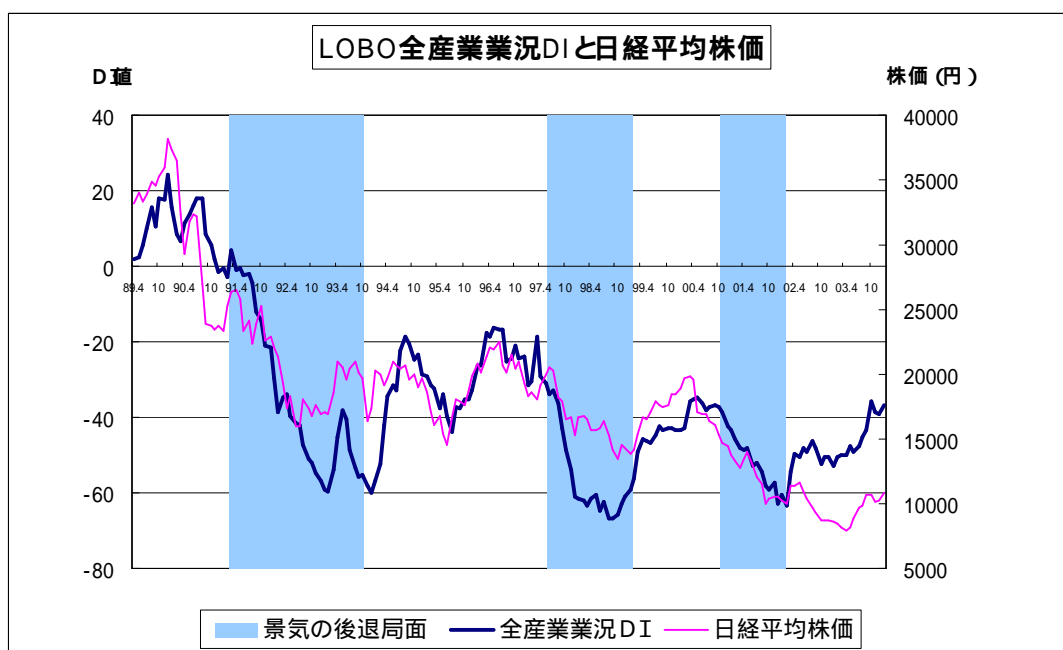
【サービス業】では、「客足が戻りつつあり、回復の兆しがみられる」（食堂、レストラン）との声の一方、「全体では売上横ばいのところが多いが、勝ち組と負け組みがはっきりしており、今後も二極化は進むと思われる」（すし店）といった声や、「客も経済的に厳しいせいで、行事の時にしか髪を切らない傾向になってきている」（理容）、「会社関係、特に建設関係の新年会が減少した」（食堂、レストラン）と、消費の低迷を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、製造を除く 3 業種で縮小したため、全産業合計の売上 D I は 2 . 6 ポイント縮小して 3 2 . 7 となり、2 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅はサービスを除く 4 業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の採算 D I は 4 . 1 ポイント縮小して 3 3 . 3 となり、3 カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう 3 カ月 (2 月 ~ 4 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース) が 3 0 . 6 と、昨年同時期の先行き見通し (4 7 . 0) と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、景況感に回復の兆しとの声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴えるコメントが、依然として多く寄せられているほか、B S E (狂牛病) や鳥インフルエンザの発生から、食品の安全性に関するコメントが見られた。



【業況についての判断】

1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（39.0）よりマイナス幅が2.2ポイント縮小して36.8となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

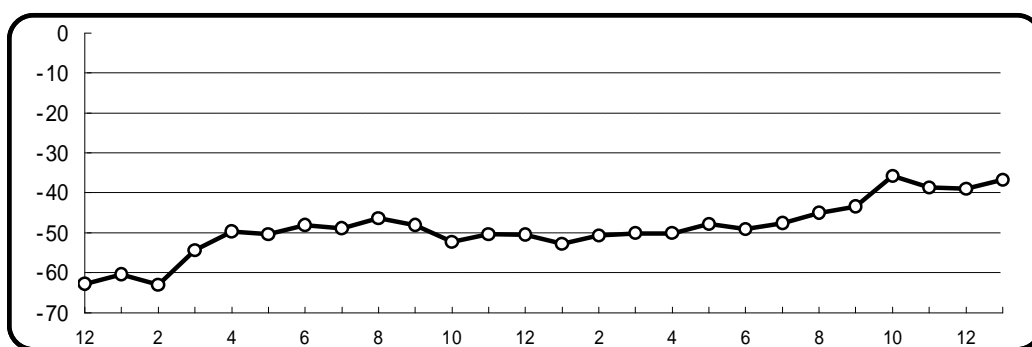
向こう3カ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が30.6と、昨年同時期の先行き見通し（47.0）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	15年 8月	9月	10月	11月	12月	16年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	45.0	43.4	35.8	38.7	39.0	36.8	30.6 (47.0)
建設	57.2	54.6	53.6	54.4	55.6	55.3	48.6 (59.8)
製造	31.8	31.7	24.6	23.0	18.9	21.5	18.6 (41.9)
卸売	52.1	41.1	36.5	40.7	53.7	36.1	25.3 (41.5)
小売	48.2	48.3	34.1	47.8	45.6	41.6	34.5 (45.8)
サービス	44.4	43.6	38.0	33.3	35.9	35.6	28.9 (48.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年1月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

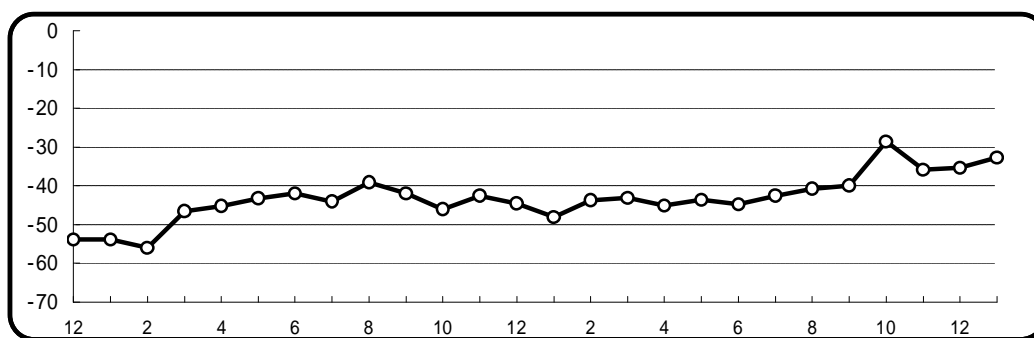
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、製造を除く 3 業種で縮小したため、全産業合計の売上 D I は 2 . 6 ポイント縮小して 3 2 . 7 となり、2 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう 3 カ月(2 月～ 4 月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上 D I (今月比ベース)が 2 6 . 6 と、昨年同時期の先行き見通し(4 2 . 2)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2～4月
全産業	40.7	39.9	28.5	35.8	35.3	32.7	26.6 (42.2)
建設	50.9	50.9	41.6	47.4	48.2	51.8	41.9 (55.5)
製造	24.3	24.4	14.2	17.4	13.1	14.1	13.2 (33.9)
卸売	46.7	36.8	30.5	39.5	43.3	34.3	28.9 (36.3)
小売	48.5	47.2	30.2	51.2	45.7	37.9	29.6 (42.9)
サービス	39.6	41.8	33.0	27.7	34.9	32.8	26.3 (44.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

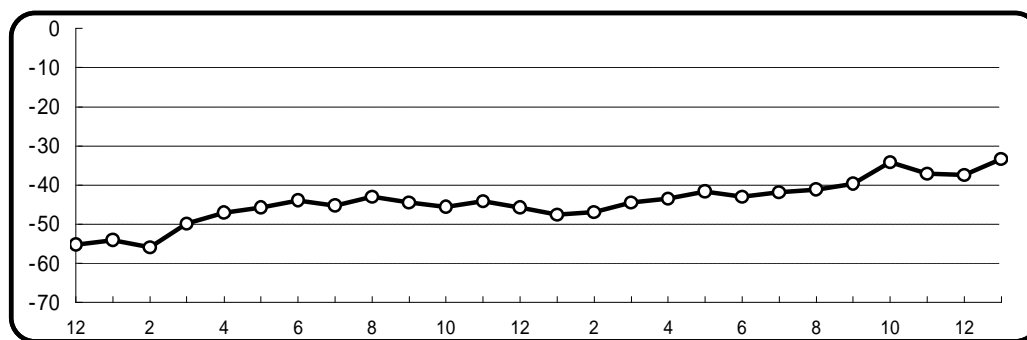
採算面では、D I 値のマイナス幅はサービスを除く4業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の採算D I は4.1ポイント縮小して33.3となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が27.7と、昨年同時期の先行き見通し(41.4)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 8月	9月	10月	11月	12月	16年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	41.1	39.6	34.2	37.1	37.4	33.3	27.7 (41.4)
建設	56.2	56.4	54.4	55.8	55.3	49.3	44.0 (57.9)
製造	31.1	33.3	28.5	25.3	27.3	23.2	21.7 (39.7)
卸売	40.1	36.2	30.5	35.2	43.9	32.5	23.5 (31.0)
小売	40.3	37.5	27.7	43.1	36.7	32.1	25.6 (35.6)
サービス	43.2	38.6	36.5	31.0	34.5	35.1	27.4 (43.5)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 8月	9月	10月	11月	12月	16年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	30.8	29.0	28.3	27.4	28.3	25.9	24.3 (35.6)
建設	44.0	44.3	44.6	41.7	44.2	41.0	41.2 (49.8)
製造	26.9	24.0	24.3	21.7	23.5	20.1	21.7 (35.7)
卸売	32.1	26.4	21.3	22.9	28.4	22.0	18.5 (30.2)
小売	27.8	26.8	26.1	26.6	25.4	26.0	19.2 (29.9)
サービス	27.9	27.2	26.5	26.0	25.3	22.8	23.8 (35.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】小売を除く4業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも2カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 8月	9月	10月	11月	12月	16年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	4.4	4.7	5.4	3.2	4.4	7.6	6.6 (4.3)
建設	2.8	0.4	1.5	1.8	3.3	6.7	5.3 (3.2)
製造	13.3	10.3	14.1	14.3	16.2	20.0	15.6 (13.5)
卸売	3.6	0.6	0.6	8.6	9.3	3.6	9.0 (3.5)
小売	0.8	2.9	0.4	2.1	2.0	2.8	1.6 (1.9)
サービス	6.4	5.3	7.8	3.2	5.3	9.1	6.5 (3.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売を除く4業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも2カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 8月	9月	10月	11月	12月	16年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	11.3	10.9	9.3	10.1	9.5	10.8	10.3 (17.7)
建設	28.3	27.3	22.7	23.4	21.5	26.6	23.8 (33.7)
製造	13.2	14.1	10.9	11.2	8.7	11.5	10.8 (21.6)
卸売	10.2	9.8	9.6	12.3	11.0	15.1	14.2 (16.3)
小売	5.5	3.1	4.6	5.8	5.8	5.5	6.0 (8.9)
サービス	4.8	5.8	3.8	3.7	6.3	4.0	3.5 (13.5)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】小売、サービスを除く 3 業種で過剰超感が強まり、全産業合計でも 2 カ月ぶりに強まる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成16年1月の景気キーワード】

回復への期待感

引き続き、製造業を中心に業況は好調との声が寄せられており、「地元ではそうでもないが、関東支社ではまとまった金額の引き合いが出てくるようにはなっている」（北九州・電気工事）「自動車関連は引き続き好調」（豊橋・自動車、附属品）「荷動き、仕事量とも確保されており、経営者のマインドは若干明るくなっている」（帯広・製材木製品製造）「製造業全体で受注量が増加し、明るい兆しになってきている」（各務原・金属加工機械）とのコメントが見られた。また、消費関連でも、「初売り期間中、全ての日で前年売上をクリアした上、過去最高の期間売上を記録し、セール終了後も売上は好調に推移」（柏・商店街）「年末年始の休暇が9連休になったことや好天に恵まれ、昨年以上の人出となった」（静岡・商店街）「売上は昨年10月以降、前年実績を上回っており、1月も同様に推移」（福山・百貨店）「台湾、韓国からの観光客が冬場も訪れており、例年以上の活気」（釧路・食堂、レストラン）といった声が寄せられている。

先行き不透明感

一方、依然として、各業種から景気の先行きに対する不透明感を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「公共事業の縮減、民間需要の停滞等、業況は相変わらず厳しい」（札幌・一般工事）「海外受注が増加しているが、円高で思うような収益に結びつかない」（茅野・電子部品製造）との声や、「元気な企業とそうでない企業の差は依然明白で、その差は拡大傾向」（京都・和装、足袋製造）と、円高の影響や企業間格差を訴える声が寄せられている。卸、小売、サービスからも、「景気回復と言われているが、中小企業はまだ悪いまま変わらない」（川崎・建築材料卸）「年末年始の売上は前年比低下し、衣料品、ギフトも不振」（檀原・百貨店）「年始のセールも、一時期の客数増程度で苦戦が続いている」（草加・商店街）「年末には幾分上向きに思えてきたが、年明けからは減少の気配を感じる」（北九州・食堂、レストラン）といった声が寄せられている。

食品安全性問題

昨年末の米国産牛のBSE（狂牛病）発生や、今月に入ってからのアジア諸国での鳥インフルエンザ発生から、食品の安全性問題の影響について懸念する声が寄せられている。「焼肉店等の需要の落ち込みにより商品の出荷が減少」（七尾・耐火物製造）「国産、オーストラリア産牛肉の価格高騰により、一部レストランでメニュー変更を余儀なくされている」（京都・旅館）「鳥インフルエンザの影響による外食に対するイメージダウンを警戒している」（西宮・一般飲食店）「消費者が肉以外の商品に対しても安全面で過敏になり、買うのを躊躇する姿をよく見かけるようになった」（川之江・百貨店）といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
15年11月	先行き不透明感	回復への期待感	天候の影響
12月	先行き不透明感	回復への期待感	
16年1月	回復への期待感	先行き不透明感	食品安全性問題

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは3カ月連続で拡大した。「店舗の新築、改修が多くなってきた」(一般工事)との声や、「競争は激化しているものの、受注単価は下げ止まりを見せている」(一般工事)といった声があるものの、「公共工事は前年比半減となり、年度末にかけても県の公共工事前倒し発注の反動で発注増の見込みは薄い」(一般工事)、「公共工事依存度が高い地域のため、公共工事削減による受注競争激化で、今後も採算悪化傾向が続く見込み」(一般工事)と、厳しい状況を訴える声が寄せられている。
製 造	業況D Iは7カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「高水準の受注が続いている」(金物類)、「受注は増加傾向」(燃系)といった声の一方、「輸送機器関連は多少明るさが見えているが、木工機械、鉄鋼関連は相変わらず厳しい」(金属加工機械)との声や、「中小メーカーはさらに経営が落ち込み、ますます大手との差が開いてきている」(楽器)、「原材料価格の上昇を販売価格には転嫁できず、採算悪化」(非鉄素形材)、「事業所により好不調の格差があり、先行きも円高懸念などで、これまでのようには楽観できない」(輸送機器)など、企業間格差や仕入れコストの上昇、円高懸念などを訴える声が寄せられている。
卸 売	業況、売上、採算D Iとも3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「今月は寒い日が続いたため売上は好転」(衣服)との声はあるものの、「売上が順調だったのは年明けのうちだけで、その後は流通の動きが止まってしまったようで、今後も大きな動きの見通しもなく不安」(食料、飲料)、「外食産業が野菜を国産から安い輸入物に替えているため、国内産の価格、消費とも低迷気味」(農畜産水産物)、「船運賃高騰のため原木の仕入コストが上昇し、採算は悪化傾向」(建築材)と、競争激化や仕入コストの上昇などの影響を訴える声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「初売りは福袋も早期に完売し、クリアランスセールもブランド婦人服を中心に好調な出足となっている」(百貨店)といった声の一方、「初売りイベントなど、年末年始の売上は好調だったが、その後は好調さを持続させるのが難しい状況」(商店街)との声や、「前年同月比6～7%の売上減で、年金・増税論議やBSE・SARS問題など悪い材料ばかりで、これまで横ばいだった消費も減少することを懸念」(百貨店)、「売れるのは高い物が安い物といった感じで中間値の物は売れないため、全体的に売上単価は下落」(商店街)、「全体的に横ばいだが、好調な店と不振店の格差がますます拡大している」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況、売上D Iとも2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月連続で拡大した。「客足が戻りつつあり、回復の兆しがみられる」(食堂、レストラン)、「業況は下げ止まり、多少明るさが見えてきたような気配がある」(洗濯)、「今ひとつ活発な動きは見られないが、何とか良い方向に向かっていくような感じはする」(デザイン)といった声の一方、「全体では売上横ばいのところが多いが、勝ち組と負け組みははっきりしており、今後も二極化は進むと思われる」(すし店)、「客も経済的に厳しいせいで、行事のある時にしか髪を切らない傾向になってきている」(理容)、「会社関係、特に建設関係の新年会が減少した」(食堂、レストラン)と、消費の低迷を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、東海、近畿、四国、九州を除く5ブロックでマイナス幅が縮小したため、全ブロック合計でも3カ月ぶりに縮小した。

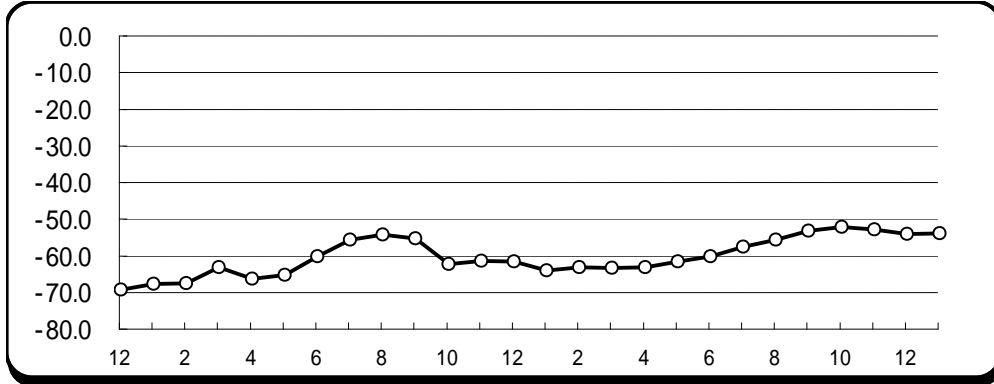
ブロック別の向こう3カ月(2月~4月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

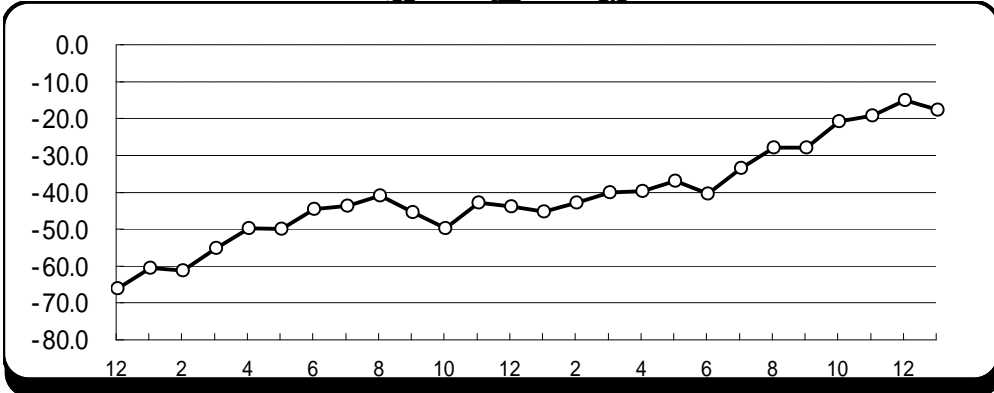
	15年 8月	9月	10月	11月	12月	16年 1月	先行き見通し 2~4月
全 国	45.0	43.4	35.8	38.7	39.0	36.8	30.6 (47.0)
北海道	40.7	37.0	34.5	37.7	33.6	29.7	26.3 (46.6)
東 北	48.8	42.4	41.5	41.8	48.9	43.7	37.7 (57.3)
北陸信越	44.0	46.0	33.1	35.7	37.0	31.8	25.3 (45.5)
関 東	47.2	44.1	28.4	35.7	33.9	31.1	27.1 (42.3)
東 海	41.9	46.5	31.3	36.1	32.1	35.6	28.2 (42.1)
近 畿	39.6	43.7	42.9	45.0	43.6	43.9	39.9 (51.8)
中 国	46.1	41.3	36.2	36.6	44.4	37.4	28.1 (49.0)
四 国	49.6	39.6	40.4	39.6	44.2	44.6	29.5 (53.6)
九 州	47.3	45.9	41.6	40.1	38.9	39.6	31.6 (43.1)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

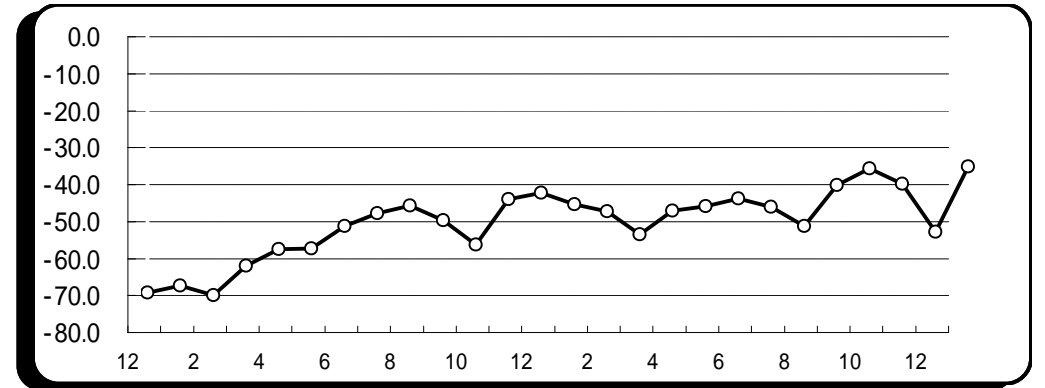
建設業



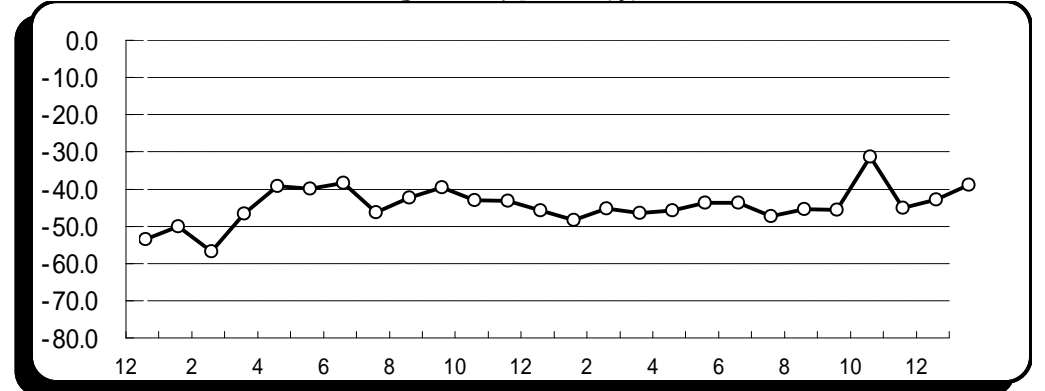
製造業



卸売業



小売業



サービス業

